

# 平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都)の結果分析

## 中学校第2学年・国語

東久留米市立 南 中学校

### ◇結果分析

<観点別結果から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

- ・“教科の内容”について“話す・聞く”の観点が都の平均値を0.6ポイント下回った。その他の観点は平均値を上回っている。
- ・“読み解く力に関する内容”に関して“取り出す力”“読み取る力”は都の平均値を5ポイント近く上回ったが“解決する力”については都の平均値と同程度となっている。

<領域別結果から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

- ・“教科の内容”は1.1ポイント、“読み解く力に関する内容”は4.2ポイント、ともに都の平均値を上回っている。
- ・学級によってはAとBの合計が都の平均値に近い。

<正答数分布から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

<到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

### ◇課題

<観点別結果、領域別結果から>

- 観点別結果において、特に“書く”の観点が都の平均値を大きく上回ることができた。学校で取り組んでいる書く力の育成への取組がひとつの結果となっている。
- “書く”以外の観点は都の平均値と同程度である。そこで書くことによる思考の整理を行わせ、話させるなど、書く力を基礎とした国語力の向上で授業等の取組で図っていく必要がある。

<正答数分布、到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

# 平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都)の結果分析

## 中学校第2学年・社会

東久留米市立 南 中学校

### ◇結果分析

＜観点別結果から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

- ・“社会的事象への関心・意欲・態度”、“社会的な思考・判断・表現”、“資料活用の技能”、“社会的事象についての知識・理解”のすべての観点で都平均を上回った。
- ・特に“社会的事象についての知識・理解”は正答率68.0%で都平均を9.7ポイント上回った。
- ・“社会的な思考・判断・表現”の正答率が都の平均を上回ったものの47.9%と低めだった。

＜領域別結果から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

- ・取り出す力は70.7%で都を6.1ポイント、読み取る力は62.0%で都を5.0ポイント、解決する力は47.3%で都を3.8ポイントと3つの項目で都平均を上回った。

＜正答数分布から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

＜到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

### ◇課題

＜観点別結果、領域別結果から＞

- 知識・理解がある程度定着してきているが、理解の深まりにつながっていない。また、資料活用の技能を基にした、思考・判断・表現の育成がまだまだ不十分である。
- 取り出す力、読み取る力はある程度定着してきているが、それらを基にした解決する力がまだ弱い。

＜正答数分布、到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

# 平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都)の結果分析

## 中学校第2学年・数学

東久留米市立 南 中学校

### ◇結果分析

<観点別結果から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

・数学への関心・意欲・態度の項目は都の平均より5.6ポイント高く91.3%であった。さらに、都の平均と比較して技能の観点では9.7ポイント、知識・理解では7.1ポイントそれぞれ高く、69.3%と68.4%であった。しかし、思考・判断・表現では東京都の率48.1%より0.5ポイント低く47.6%であった。

<領域別結果から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

読み解く力に関する内容では、取り出す力の本校の正答率は49.9%と都の29.3%より17.6ポイント高い。解決する力に関しても都の正答率36.8%に対して本校は44.2%ポイントと7.4ポイント高かった。しかし、読み取る力では都の正答率37.6%に対して本校は2.1ポイント低かった。

<正答数分布から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

<到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

### ◇課題

<観点別結果、領域別結果から>

- 基礎学力の定着を図るため計算や学習内容の確認プリントを活用する。
- 思考・判断・表現においては、文章を読解し表や図を利用して解決したり、1次関数の関係を見いだしたり、類推することに課題がある。図形の分野の空間観察力や平面の構成の理解が低い。
- 従って、今後の課題として問題の意図することを読み取らせる指導をして、問題解決のための見通しや筋道を的確に立てさせる指導を考えていく。

<正答数分布、到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

# 平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都)の結果分析

## 中学校第2学年・理科

東久留米市立 南 中学校

### ◇結果分析

＜観点別結果から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

- ・“自然事象への関心・意欲・態度”、“科学的な思考・判断・表現”、“観察・実験の技能”、“自然事象についての知識・理解”のすべての観点で都平均を大きく上回った。
- ・特に“観察・実験の技能”は正答率90.6%で都平均より16.0ポイント上回った。
- ・前年度、都平均より3.5ポイント下回っていた“科学的な思考・判断・表現”は、都平均より5.0ポイント上回った。

＜領域別結果から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

- ・取り出す力は87.0%、読み取る力は39.1%、解決する力は62.7%とすべての項目で都平均を上回った。
- ・すべての項目で7.5ポイント以上上回った。

＜正答数分布から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

＜到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

### ◇課題

＜観点別結果、領域別結果から＞

- “観察・実験の技能”の正答率が非常に高かった原因は、観察・実験の授業において、レポートの作成を実施していることが影響していると考えられる。
- 東京都全体と同じように、複雑な問題を読み取る力不足している。4択の問題で本校の正答率が18.1%の問題があり、思い込みで答えてしまっているところがあり、複雑な問題は慌てずに問題を整理して回答できるようにしていく必要がある。そのために問題演習を日頃からやっていく必要がある。

＜正答数分布、到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から＞

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

# 平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都)の結果分析

## 中学校第2学年・英語

東久留米市立 南 中学校

### ◇結果分析

<観点別結果から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

- ・“コミュニケーションへの関心・意欲・態度”、“外国語表現”、“外国語理解”、“言語における知識理解”のすべての観点で都平均を大きく上回った。
- ・特に“言語における知識・理解”は正答率73.1%で都平均より7.6ポイント上回った

<領域別結果から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

- ・取り出す力は72.1%、読み取る力は79.7%、解決する力は54.0%とすべての項目で都平均を上回った。
- ・取り出す力に関しては8.6ポイント、読み取る力は2.2ポイント、解決する力は4ポイントとすべての項目で都の平均を上回った。

<正答数分布から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

<到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。

### ◇課題

<観点別結果、領域別結果から>

- “言語における知識・理解”が高かった原因は、定期的に行っている単語テストがいい影響を与えていると考えられる。
- “外国語理解”が都より1ポイントしか上回っていなかった理由としては、リスニングにおいて英語を正しく“聞き取る”能力が不足していることや、長文を適切に“読み取る”力が不足している点が挙げられるため、今後の課題として取り組んでいきたい。

<正答数分布、到達目標値達成、習得目標値未達の生徒の割合から>

【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

11月下旬(予定)の東京都の公式発表後に、再度結果分析を行い、記載します。